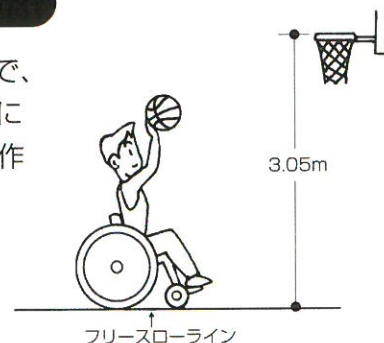


車椅子バスケットボールについて

1. ゲームのあらまし

車椅子バスケットボールのルールは、一般のバスケットボールのルールとほぼ同じで、1チーム5人の選手がボールを奪い合い、一般の競技と同じ高さ(3.05m)のゴールにボールを投げ入れて、得点を競います。スピードや敏捷性、持久力に加えて、車椅子を操作する技術などが決め手となります。

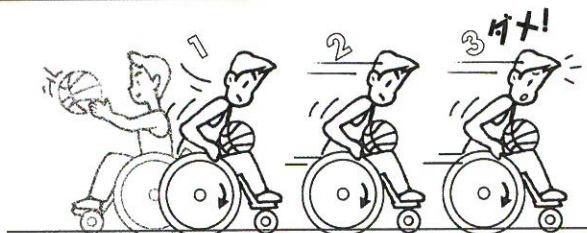
また、ゲームは、10分のピリオドを4回行います。第1ピリオドと第2ピリオドの間、第3ピリオドと第4ピリオドの間にそれぞれ2分のインターバルがあり、第2ピリオドと第3ピリオドの間のハーフタイムは、10分または15分です。



2. 車椅子バスケットボール特有のルール

(1) トラヴェリング

選手がボールを持っているときのプッシュ(車椅子を手でこぐこと)は、連続2回までです。3回以上プッシュするとトラヴェリングとなり、相手チームのスロー・インとなります。



(2) ダブルドリブル

車椅子バスケットボールでは、ダブルドリブルは適用されません。こぐ(プッシュ)のが2回以内でドリブルをすれば、またこいでもよいことになっています。(以下何回でもできます。)



(3) 車椅子の転倒

試合中に車椅子が転倒した場合は、自力で起きあがらなければなりません。起きあがることができない場合は、審判の判断で試合が中断され、チームスタッフが介助します。なお、ボールを持ったまま転倒した場合は、相手チームのスロー・インとなり、ボールを持たずに転倒した場合は、審判の判断で試合が中断されることがあり、ボールを持っていたチームのスロー・インとなります。



(4) 選手とチームの持ち点

車椅子バスケットボールの選手は、一人ひとりが障害の程度により、1.0点から0.5点きざみで4.5点まで、持ち点でクラス分けされています。そして、常にコートに出ている5人の選手の持ち点の合計が14.0点以内でなくてはなりません。もちろん、選手交代があっても、常に14.0点以内のチーム編成が必要です。

持ち点	程度	主 な 動 き
1.0または1.5	重い	腹筋、背筋が機能せず、座位バランスを取ることができません。
2.0または2.5	↑	腹筋、背筋がある程度機能しており、前傾の姿勢が取れます。
3.0または3.5	↓	下肢にわずかな筋力があり、深い前傾姿勢から早く上体を起こすことができます。
4.0または4.5	軽い	両手を上げて、片方向に(4.5は両方向に)車椅子を大きく傾けることができます。

観戦者募集

これまでの大会では、多くの小・中学生、団体のみなさまにご観戦いただいています。団体席の確保にも対応していますので、お気軽にお問合せください。【2016年9月より受付開始予定】

